

令和7年度 第3回 狩野川水系流域委員会 議事要旨

日時：令和8年2月12日（木）10:30～12:30

場所：沼津市立図書館（WEB 併用）

1. 委員会の成立

- ・委員総数8名の内、8名出席であることから、狩野川水系流域委員会規約第4条に則り、本委員会は成立した。

2. 議事

(1) 令和7年度流域委員会におけるご意見とその対応

「令和7年度流域委員会におけるご意見とその対応」について説明し、以下のご意見を頂いた。

- ・ P. 15～16 整備目標を設定する上での減少率については、まだ議論の余地がある。評価原点の値においても出水等により減少する可能性があるため、現在設定している整備目標にこの減少分を含ませ、目標数値を設定した方が良い。たまり・ワンドは、面積だけでなく、個数や個々面積等、質的な面の議論も必要である。
- ・ P. 12 下水として流域外に排水されている量を把握しておく必要があるのではないか。
- ・ P. 17 富士海岸の汀線は大きな変化はみられないようだが、今後も注視していった方が良い。
- ・ P. 9 左側の持越第2砂防堰堤に設置されている魚道は、落差工の滝つぼに魚類が向かってしまい、右岸側の魚道入口を見つけられない可能性がある。河川整備計画対象区間外かもしれないが、遡上できる魚道に改善を図って頂きたい。

(2) 狩野川水系河川整備計画(変更原案)について

「狩野川水系河川整備計画(変更変更について)」について概要説明を行い、以下のご意見を頂いた。

- ・ P. 7～8 中下流域で目標流量が河川整備基本方針と同じである。次期河川整備計画が完了した後は、中下流部の河道整備は完了するというのか。
- ・ P. 30 河道の維持管理として、伐開樹木の処理としてチップ化、堆肥化等のコスト縮減は有用であるため、引き続き取り組み、周辺農家等での活用も図って頂きたい。
- ・ P. 18 近年の気候変動の影響で雨が降らない期間が増えるなど、様々な条件に変化が生じている。許可水利権の更新時には、柔軟な対応をお願いしたい。
- ・ P. 3、10 基本理念や水位低下対策の文章に読みにくい表現があるため、文章を見直した方がよい。
- ・ 本文 P. 1-3 土地利用状況に関する文章が現状を示す内容と、変化状況を示す内容が混在しているため、表現を工夫した方がよい。また、社会動態、市民・企業の変化などについても記載をした方がよい。
- ・ 本文 P. 2-9 「景観場」の表現を見直したほうがよい。
- ・ 本文 P. 3-16 「(1)住まい方の工夫に関する取り組み」に、企業等の産業が取り組む内容についても表記した方がよい。
- ・ 本文 P. 3-30 狩野川資料館をより有効に活用してもらえよう、関係機関への働きかけなどについて記載をした方がよい。
- ・ P. 21～22 河川環境によって生息する生物種が異なるため、それらを同時に把握することが重要となる。河川水辺の国勢調査は、調査項目ごとに単年で実施しているが、動物に関する調査と植物に関する調査を同時期に実施していくことを検討して頂きたい。
- ・ P. 27 学校への出前講座の取り組みは非常に良い取組である。今後、河川環境の創出場周辺の教育機関でも出前講座を実施し、河川環境、河川事業等の普及啓発に役立てて頂きたい。
- ・ P. 7、10、11 分流堰の固定堰部切り下げは、今の放水路の流下能力を最大限発揮させるためのものであり、この段階で放水路に 2,000m³/s 以上を流下させる事業ではないと理解してよいか。

また、上流の河道改修で通過流量が増加すると、下流への負担が増加するため、改築の整備順序に留意する必要がある。

- ・ P. 21～22 区分1は河道掘削の規模が大きいため、干潟やヨシ原の定量目標を達成できるかどうか。その見通しがあるのか。
- ・ P. 21、22 ウツセミカジカの産卵場は区分2、3ではないか。
- ・ 本文 P. 3-14 「物理場」の表現を見直した方がよい。
- ・ P. 21 表中の文章に、「河辺性樹林（メダケ等）の繁茂」とあるが、生物種の課題には影響ないか。過去に創出したワンド付近にメダケの繁茂により土砂堆積したため除去した。
- ・ 本文 P. 2-1 対象期間の開始が〇年と記載されているが何年か明記するのか。

3. その他

(1) 今後の流域委員会の開催予定

「今後の流域委員会の開催予定」について説明を行った。

(2) 狩野川水系河川整備計画現行現に関するパブリックコメント・説明会

「狩野川水系河川整備計画現行現に関するパブリックコメント・説明会」について説明を行った。

以上